



iPhone15シリーズは「買い」？ 所有モデル別おすすめ度



アップルの最新スマートフォン「iPhone15」シリーズが発売された。前モデルの「iPhone14」シリーズと同じく、上級モデルの「Pro」シリーズのみ最新SoC（システム・オン・チップ=異なる機能を持つ複数のLSIを一つの集積回路に集約したもの）の「A17 Pro」が搭載されているほか、カメラの光学ズーム倍率も引き上げられている。さて、最新モデルの「15」シリーズは「買い」なのか？

「15」も革新的な進化はなし

このところ「緩やかな変化」を続けているiPhoneだが、「15」シリーズも同様だ。大きなスペック変更としては、接続端子が独自規格のLightningから、汎用規格のUSB Type-Cに変更されたことだろう。USB Type-Cは「USB 3.x」規格でデータ伝送速度は最大20Gbpsと、「USB 2.0」規格だったLightningの最大480Mbpsの40倍を超える超高速伝送が可能になる。

もっとも、これは理論値で実際には上位モデルの「15 Pro」「15 Pro Max」でも10Gbps止まり。製品に付属するUSB Type-Cケーブルは「USB 2.0」仕様なので、480Mbpsが上限となる。10Gbpsのデータ伝送を実現するには、高速対応ケーブルを用意しなくてはならない。

下位モデルの「15」「15 Plus」では端末側が「USB 2.0」仕様なので、高速対応ケーブルで接続しても伝送速度はLightningと同じ480Mbpsのままだ。要は端子の形状が変わっただけで、実質的な性能は変わらない。ヘッドフォンやマイクといったLightning仕様の周辺機器を利用しているユーザーにとっては変換アダプタが必要になったり、利用できなくなったりというデメリットもある。

「15 Pro (Max)」はカメラのズーム機能が従来の3倍から5倍となり、ボディに初めてチタンを採用して最も重い「Pro Max」で19gの軽量化を実現した。SoCも最新型に換装されているなど、そこそこ進化したモデルとなっている。アプリの動きをスムーズにするメモリも「iPhone13 Pro」以来、3モデルぶりに6GBから8GBへ増量した。

下位モデルの「15」「15 Plus」はSoCこそ「14 Pro」「14 Pro Max」と同じ「A16 Bionic」だが、前モデルの「14」「14 Plus」に比べると1世代進化した。カメラも1200万画素から4800万画素に強化されている。

一方で、変わっていない部分も少なくない。内部ストレージの最大容量は1TBで、2世代前のモデルと同じ。第5世代移動体通信規格（5G）の高速バージョンであるミリ波への対応も、4年連続で見送られた（米国など海外では「iPhone12」以降は対応済み）。国内のミリ波による通信は全モバイルトラフィックの0.2%程度しかないとはいえ、最新の通信規格に未対応なのは困りものだ。

新旧モデル別主要スペック一覧

モデル名SoCメモリ
(RAM) ストレージカメラ

iPhone15 Pro Max
A17 Pro
8GB
256GB~1TB
トリプル
最大4800万
5倍ズーム

iPhone15 Pro
A17 Pro
8GB
128GB~1TB
トリプル
最大4800万
5倍ズーム

iPhone15/Plus
A16 Bionic
6GB
128GB~512B
デュアル
最大4800万
2倍ズーム

iPhone14 Pro/Max
A16 Bionic
6GB
128GB~1TB
トリプル
最大4800万
3倍ズーム

iPhone14/Plus
A15 Bionic
(5コアGPU)
6GB
128GB~512B
デュアル
1200万
2倍ズーム

iPhone13 Pro/Max
A15 Bionic
(4コアGPU)
4~6GB
128GB~1TB

トリプル
1200万
3倍ズーム

iPhone13/Plus/mini
A15 Bionic
(4コアGPU)
4GB
128GB~512GB
デュアル
1200万
2倍ズーム

iPhone12シリーズ以前
A14 Bionic以下
4GB以下
512GB以下
デュアル
シングル
最大1200万
最大2倍ズーム

SoCとカメラ機能の差が「買い」の判断材料

それでは「15」シリーズは「買い」なのか、「待ち」なのか？アップルは「iPhone3G」から「iPhone 6」まではメジャーモデルチェンジとマイナーモデルチェンジ（Sシリーズ）があり、2年に1度「買い」のタイミングがあった。しかし「iPhone7」以降はこうしたメジャーマイナーチェンジとマイナーモデルチェンジの差別化がなくなり、「誰にとっても買い」というタイミングはなくなった。

つまり、現在使用しているモデルとの比較で「買い」と「待ち」を判断する必要があるのだ。まずは前モデルの「14」シリーズで見ていこう。「14 Pro Max」ユーザーは若干の軽量化となり、光学ズームが5倍になったことから「15 Pro Max」は検討してもよいかもしれない。だが、軽量化したとはいえ「Pro Max」の重量は221gとスマホとしては重く、ズームも倍率が上がるほど用途が限られるし、本格的な遠景撮影をするのなら10倍はほしい。

Maxモデルを選ぶということは大画面が魅力だろうから、「14 Pro Max」ユーザーにとって小画面の「15 Pro」の魅力は乏しいだろう。ましてや「15 Plus」や「15」はSoCが変わらない上にカメラ機能も劣るため、買い替える意味はなさそうだ。

「14 Pro」ユーザーも同様の理由で「15 Pro Max」と「15 Pro」は検討の余地がある。「買い」を推奨できるのは「14 Plus」ユーザーの「15 Pro Max」買い替えだ。大画面の持ち味はそのままに、カメラ機能はツインからトリプルに、画素数の向上など大幅に強化される。SoCも2世代進化した。大画面にこだわらない「14」ユーザーであれば、「15 Pro」も「買い」推奨に入るだろう。

「13」シリーズ以前となると、ほぼ「買い」推奨だ。ただし「13 mini」は小型モデルで、「14」シリーズに続いて「15」シリーズにも設定がない。小型モデルがを選びたいなら、可能性は低いが「16」シリーズ以降のmini復活に期待するか、「iPhone SE」の第4世代を待つ方が良いだろう。

「iPhone12」シリーズ以前のモデルはSoCが3世代落ちで、買い替え時期に入ったと言える。とはいえ、メモリやストレージは最新の「iOS17」やアプリも十分に対応する余力があるモデルも。円安で価格も上がっており、「お財布」に余裕がないなら「待ち」でも普段づかいに何ら支障はないだろう。

現有モデル別の買い替えお勧め度
 モデル名iPhone15 Pro MaxiPhone15 ProiPhone15 PlusiPhone15

iPhone14 Pro Max



iPhone14 Pro



iPhone14 Plus



iPhone14



iPhone13シリーズ



iPhone13 mini



iPhone12シリーズ以前



関連記事はこちら・まもなく発表！気になる新型「iPhone15」のお値段は？・48万円の「Vision Pro」、アップルはどう売るか？